

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7666164号
(P7666164)

(45)発行日 令和7年4月22日(2025.4.22)

(24)登録日 令和7年4月14日(2025.4.14)

(51)国際特許分類

F I

E O 4 H 1/02 (2006.01)

E O 4 H 1/02

請求項の数 5 (全11頁)

(21)出願番号	特願2021-104573(P2021-104573)	(73)特許権者	000198787
(22)出願日	令和3年6月24日(2021.6.24)		積水ハウス株式会社
(65)公開番号	特開2023-3474(P2023-3474A)		大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
(43)公開日	令和5年1月17日(2023.1.17)	(74)代理人	100117101
審査請求日	令和6年3月6日(2024.3.6)		弁理士 西木 信夫
		(74)代理人	100120318
			弁理士 松田 朋浩
		(72)発明者	中原 潤平
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
		審査官	須永 聡

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 住宅

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

自動車が通過可能であって外部に開口する自動車路を有する住宅であって、
上記自動車路の幅方向の一方に面する第1玄関と、
上記自動車路の幅方向の他方に面する第2玄関と、
上記第1玄関と同一階で繋がる第1居室と、
上記第2玄関と繋がり、上記第1居室とは別階に位置する第2居室と、を有しており、
上記第1玄関および上記第2玄関は、地階に位置する住宅。

【請求項2】

自動車が通過可能であって外部に開口する自動車路を有する住宅であって、
上記自動車路の幅方向の一方に面する第1玄関と、
上記自動車路の幅方向の他方に面する第2玄関と、
上記第1玄関と同一階で繋がる第1居室と、
上記第2玄関と繋がり、上記第1居室とは別階に位置する第2居室と、
上記第1玄関と、上記第1居室とを繋ぐ廊下と、
窓を介して上記廊下に面するドライエリアと、を備える住宅。

【請求項3】

自動車が通過可能であって外部に開口する自動車路を有する住宅であって、
上記自動車路の幅方向の一方に面する第1玄関と、
上記自動車路の幅方向の他方に面する第2玄関と、

上記第1玄関と同一階で繋がる第1居室と、
上記第2玄関と繋がり、上記第1居室とは別階に位置する第2居室と、
上記第1居室と同一階に位置しており、上記自動車路と繋がる駐車スペースと、を備える
住宅。

【請求項4】

上記第1居室と上記駐車スペースとが窓を介して隣接する請求項3に記載の住宅。

【請求項5】

自動車が通過可能であって外部に開口する自動車路を有する住宅であって、
上記自動車路の幅方向の一方に面する第1玄関と、
上記自動車路の幅方向の他方に面する第2玄関と、
上記第1玄関と同一階で繋がる第1居室と、
上記第2玄関と繋がり、上記第1居室とは別階に位置する第2居室と、
ドライエリアと、を有しており、
上記第1居室は、上記第1玄関に面しており且つ上記ドライエリアと窓を介して面する
住宅。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、住宅に関する。

【背景技術】

20

【0002】

下記の特許文献1には、敷地内に、建物と、カーポートとを備える住宅が記載されている。住宅の一階においてカーポートの右側には建物の玄関が設けられ、カーポートの左側には建物の勝手口が設けられる。玄関には、階段が玄関ホールを介して繋がっている。勝手口には、階段が繋がっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2003-64889号公報

【発明の概要】

30

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1に記載の住宅では、カーポートは居住者用であり、来客用としては考慮されていない。仮に、特許文献1に記載の住宅に自動車で来客があったとき、来客は、カーポートから玄関を通して2階のリビングルームに階段を通して上ることとなり、居住者の導線と来客の動線とが重なる。

【0005】

本発明は、前述された事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、自動車で訪問する来客の動線を考慮した住宅を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

40

【0006】

(1) 本発明は、自動車が通過可能であって外部に開口する自動車路を有する住宅であって、上記自動車路の幅方向の一方に面する第1玄関と、上記自動車路の幅方向の他方に面する第2玄関と、上記第1玄関と同一階で繋がる第1居室と、上記第2玄関と繋がり、上記第1居室とは別階に位置する第2居室と、を有する。

【0007】

自動車路から、第1玄関と同一階で繋がる第1居室に繋がる動線と、第2玄関と繋がる第2居室に繋がる動線とが個別的に設けられる。そのため、人が自動車路から第1居室や第2居室へとスムーズに移動できる。

【0008】

50

(2) 上記第1玄関および上記第2玄関は、地階に位置する。

【0009】

日当たりの良い地上階のスペースを有効利用できる。

【0010】

(3) 住宅は、上記第1玄関と、上記第1居室とを繋ぐ廊下と、窓を介して上記廊下に面するドライエリアと、を備える。

【0011】

ドライエリアおよび窓を通じた採光により廊下が明るくなる。

【0012】

(4) 上記住宅は、上記第1居室と同一階に位置しており、上記自動車路と繋がる駐車スペースをさらに備える。

【0013】

駐車スペースから第1居室へと人がスムーズに移動できる。

【0014】

(5) 上記第1居室と上記駐車スペースとが窓を介して隣接する。

【0015】

第1居室から駐車スペースの自動車を見ることができる。

【0016】

(6) 上記第1居室は、上記第1玄関に面しており且つ上記ドライエリアと窓を介して面する。

【0017】

第1居室は、人が第1玄関から直接出入りできる。窓を通じた採光により第1居室が明るくなる。

【発明の効果】

【0018】

上記発明によれば、自動車で来訪する来客の動線を居住者と別に確保できる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】住宅100の地下1階を示す平面図。

【図2】住宅100の1階を示す平面図。

【図3】住宅100の2階を示す平面図。

【図4】住宅100の3階を示す平面図。

【図5】図1～図4の線A-A'に沿う住宅100の縦断面を東から見た時の模式図。

【図6】図1～図4の線B-B'に沿う住宅100の縦断面を北から見た時の模式図。

【発明を実施するための形態】

【0020】

以下、本発明の一実施形態に係る住宅100を詳説する。以下の実施形態は、本発明の一例にすぎず、本発明の要旨を変更しない範囲で、実施形態を適宜変更できることは言うまでもない。

【0021】

各図には、互いに直交する矢印X、Y、Zが示される。矢印Xは、南北を示す。矢印Yは、東西を示す。矢印Zは、鉛直方向を示す。図1では、紙面の右方が東であり、紙面の奥方向が北であり、紙面の上方が鉛直上向きである。

【0022】

〔住宅100の全体構成〕

図1～図5において、住宅100は、東西に延びる道路200に南側から面する敷地300に建てられており、地下1階、地上2階建てである。以下、地下1階を単に地階とも称する。

【0023】

〔地階〕

10

20

30

40

50

図1において、地階は、来客用のスペースとして使用され、大略的に、自動車路11、駐車スペース12、玄関13、14、シューズクローク（以下、「SC」とも称す）15、エントランスリビング（以下、「EL」とも称す）16、ホール17、寝室（以下、「BR」とも称す）18、およびシアタールーム20を備える。住宅100は、ドライエリア19、121を備える。ドライエリア（英名：areaway）19、121は、地階の外壁の外側に隣接するように掘り下げられた空間である。

【0024】

自動車路11は、自動車が通行可能であり、出入口111、112と、スロープ113、114と、平坦路115と、を有する。出入口111、112は、住宅100の北西隅付近および北東隅付近で道路200に面する。即ち、出入口111、112は、道路200の方を向く開口である。出入口111、112は、玄関14を挟んで東西に離れている。スロープ113、114は、出入口111、112から南へ延びて地階に至る。平坦路115は、地階において、スロープ113、114の南端間で東西に直線的に延びる。

【0025】

駐車スペース12は、平坦路115の西端付近に南側から繋がり、約4台の駐車能力を有する。駐車スペース12の南隣りには、植樹（図2も参照）がなされたドライエリア121が設けられている。ドライエリア121の鉛直上方には、基本的に、建物100の構造物（天井、床および底等）が設けられていない。但し、ドライエリア121から上空が十分に見通せるという条件を満たす範囲でドライエリア121の鉛直上方へと建物100から構造物が突出することは許容される。この点は、後述のドライエリア19にも同様に当てはまる。以下、ドライエリア121の直上の空間を、吹き抜け空間SW1（図3等を参照）とも称する。

【0026】

玄関13、14は、第1玄関および第2玄関の一例である。玄関13、14は、自動車路11の幅方向における一方および他方にそれぞれ面している。幅方向は、南北方向である。幅方向の一方は南側であり、その他方は北側である。玄関13は、主に来客用であり、玄関14より遥かに広い。これにより、大人数の来客がスムーズに地階内に移動でき、さらには、玄関13からホール17を介して地階の各部屋に移動できる。玄関14は、外壁により外部と区画されており、引き戸を介して平坦路115と繋がっている。玄関14は、来客用および住人用であり、1階への階段141を有している。

【0027】

SC15は、隔壁を介して玄関13に南側で隣接し、開き戸を介して玄関13と繋がっている。SC15からは駐車スペース12へと至る通路151が東西に延びている。通路151の長さは、駐車スペース12から玄関13を介してSC15に至る経路の長さより短い。通路151は、隔壁により玄関13やシアタールーム20と区画され、西端の開き戸を介して駐車スペース12と繋がっている。

【0028】

EL16は、第1居室の一例であり、玄関13の東側且つ平坦路115の南側に隣接する。EL16は、引き戸を介して玄関13と繋がっている。EL16は、隔壁および窓により平坦路115と区画されている。EL16には、住人や来客（以下、「来客等」とも称す。）が団欒できるようにソファやテーブルが設置されている。来客等は、靴を履いたまま玄関13およびEL16との間を行き来できる。これにより、多数の来客で玄関13やSC15が混雑する場合に、一部の来客がEL16で玄関13やSC15が空くまで待ったり団欒したりできる。

【0029】

ホール17は、廊下の一例であり、EL16の南西隅から南に延びて、住宅100の外壁に突き当たる廊下を有する。ホール17は、ホール17の西北隅付近で開き戸を介してSC15と繋がっている。ホール17は、隔壁によりシアタールーム20と区画されている。ホール17の北寄りの位置からは、この隔壁に沿って、1階への階段175が延びている。

10

20

30

40

50

【0030】

B R 1 8 は、第 1 居室の一例であり、ホール 1 7 の南端付近に東側から面し、引き戸を介してホール 1 7 と繋がっている。寝室 1 8 には、ベッドが設置されている。

【0031】

ドライエリア 1 9 は、E L 1 6 の南隣りに窓 1 6 1 や外壁を介して位置し、ホール 1 7 の東隣りに窓 1 7 6 や外壁を介して位置し、寝室 1 8 の北隣りに窓や外壁を介して位置する。以下、E L 1 6、ホール 1 7 および B R 1 8 をひとまとめにした屋内空間を、第 1 空間とも称する。ドライエリア 1 9 にも植樹がなされている（図 2 も参照）。この植樹は、ドライエリア 1 9 と同一階の第 1 空間からだけでなく、階上の第 2 空間や第 3 空間（詳細は後述）からも視認可能である。ドライエリア 1 9 の直上の空間は、吹き抜け空間 S W 2 である。吹き抜け空間 S W 2 は、吹き抜け空間 S W 1 と同様の構造を有し、上空を十分に見通せるよう上向きの開口を有する（図 3 や図 4 を参照）。

10

【0032】

ホール 1 7 の南端付近からは細い廊下 1 7 1 が西へと延びている。廊下 1 7 1 には、トイレ 1 7 2 が南側から面している。廊下 1 7 1 には、脱衣室 1 7 3 が西側から面し、脱衣室 1 7 3 には、浴室 1 7 4 が引き戸を介して西側で隣接する。このように、地階には、上述の寝室 1 8 に加え、トイレ 1 7 2、脱衣室 1 7 3 および浴室 1 7 4 が来客用に用意されているため、来客が住宅 1 0 0 に滞在し易い。

【0033】

シアタールーム 2 0 は、第 1 居室の他の一例であり、引き戸を介して北側から廊下 1 7 1 に面する。シアタールーム 2 0 は、東側、南側および北側の隔壁と、西側の窓 2 0 1（窓の一例）とにより、地階における他の空間と区画される。窓 2 0 1 は、シアタールーム 2 0 内の空間と、駐車スペース 1 2 との間に設けられ、南側および北側の隔壁の間の広範囲に亘り上下南北に広がっている。シアタールーム 2 0 には、ソファ、テーブル、ディスク再生装置、プロジェクタおよびスクリーン等が設置されている。

20

【0034】

シアタールーム 2 0 は、住宅 1 0 0 の外壁から離れているため、住宅 1 0 0 の外部に音が漏れにくい。そのため、来客等は、ディスク再生装置により再生される映画等を存分に楽しむことができる。シアタールーム 2 0 は、駐車スペース 1 2 に窓 2 0 1 を介して東側に面している。そのため、来客等は、窓 2 0 1 から駐車スペース 1 2 の自動車を見て楽しむことができる。駐車スペース 1 2 の南側にはドライエリア 1 2 1 があるため、図 6 の矢印 A R 6 に示すように、シアタールーム 2 0 の換気がし易い。矢印 A R 6 は、ドライエリア 1 2 1 から駐車スペース 1 2 に向かう空気の流れと、駐車スペース 1 2 から窓 2 1 0 を介してシアタールーム 2 0 に至る空気の流れを示している。

30

【0035】

[1 階]

図 2 において、1 階は、来客に開放されたパブリック空間としても用いられ、大略的に、ホール 2 1、リビングダイニングキッチン（以下、「LDK」とも称す）2 2、アウトドアダイニング（以下、「OD」とも称す）2 3、アウトドアリビング（以下、「OL」とも称す）2 4、コート 2 5、2 6、およびホール 2 7 を備える。1 階の各部屋は、少なくとも階段 1 4 1 を介して玄関 1 4 と繋がる。

40

【0036】

ホール 2 1 は、玄関 1 4（図 1 参照）の略真上に位置する。ホール 2 1 には、地階（図 1 参照）からの階段 1 4 1 と、2 階（図 3 参照）への階段 2 1 1 とが設けられている。

【0037】

LDK 2 2 は、第 2 居室の一例であり、平坦路 1 1 5（図 1 参照）の東西における中央部分や玄関 1 3 等の直上に位置する。LDK 2 2 は、ホール 2 1 の南隣りに引き戸や隔壁を介して位置し、西側および東側を窓により区画される。LDK 2 2 は、西北の部分にキッチンセット 2 2 1 を、北東の部分にダイニングセット 2 2 2 を、南寄りの部分にリビングセット 2 2 3 をそれぞれ備えている。鉛直方向 Z において、LDK 2 2 のリビング部分

50

と、2階の天井との間は、吹き抜け空間SW6（図3参照）になっている。即ち、吹き抜け空間SW6には、1階の天井および2階の床が無い。

【0038】

OD23は、第2居室の一例であり、平坦路115（図1参照）の西端付近の直上に位置する。OD23は、LDK22のキッチン部分の西側に窓を介して隣接する。OD23は、西側を外壁により区画され、北側を穴あき壁233により区画されている。穴あき壁233には、通気のために多数の貫通孔が形成されている。OD23は、キッチンセット231およびダイニングセット232を備えている。

【0039】

OL24は、第2居室の一例であり、平坦路115（図1参照）の東端付近の直上に位置する。OL24は、LDK22のダイニング部分の東側に窓を介して隣接する。OL24は、東側を外壁により区画され、北側を、多くの貫通孔を有する穴あき壁242により区画されている。OL24は、リビングセット241を備えている。

【0040】

コート25、26は、建物100の外壁や窓で包囲され、植樹がなされた中庭である。コート25、26の直上の空間は、吹き抜けSW3、SW4（図3、図4参照）になっている。吹き抜け空間SW3、SW4は、吹き抜け空間SW1と同様、上空を十分に見通せる、上向きの開口になっている。

【0041】

詳細には、コート25は、駐車スペース12（図1参照）の北寄りの部分の直上に位置し、LDK22のリビング部分の西隣に窓を介して位置する。コート25は、OD23の南隣りに、且つ浴室29および脱衣室30よりも北に位置する。コート25の植樹は、1階のLDK22、OD23、浴室29および脱衣室30、ならびに2階のサニタリースペース35やバルコニー351、352から視認可能である。

【0042】

コート26は、EL16の略直上且つOL24の南隣りに位置する。コート26は、LDK22のリビング部分の東隣りに窓を介して位置する。コート26は、平面視で、地階のドライエリア19の北隣りに位置する。コート26およびドライエリア19の間には、地上1階から最上階までの全範囲において風通しや日光を完全に遮る構造物は設けられていない。即ち、吹き抜け空間SW4は、吹き抜け空間SW2の北側（即ち、水平方向）で吹き抜け空間SW2と連続している。コート26の植樹は、第2空間から視認可能である。第2空間は、LDK22、OL24、ホール27および図書室28をひとまとめた空間である。コート26の植樹は、第2空間からだけでなく、上述の第1空間の一部や、第3空間からも視認可能である。第3空間は、2階のホール34、BR38およびバルコニー331（図3参照）からも視認可能である。

【0043】

ホール27は、ホール17およびシアタールーム20（図1参照）の略直上に位置する。ホール27は、LDK22の南隣りに引き戸等を介して位置する。ホール27は、平面視でドライエリア19の西隣りに窓275を介して位置する。ホール27には、地階（図1参照）からの階段175と、2階（図3参照）への階段271とが設けられている。鉛直方向Zにおいて、ホール27の階段271およびその周辺と、階段室39（図4参照）の天井との間は、吹き抜け空間SW5（図3、図4参照）になっている。即ち、吹き抜け空間SW5には、2階の天井および階段室39の床が無い。

【0044】

図2において、ホール27における南東隅には、図書室28が東側から面する。図書室28は、南側を窓により区画されており、平面視でドライエリア19の南側に隣接する。ホール27における南西隅には、脱衣室30が西側から面しており、脱衣室30の西側には浴室29が隣接している。浴室29および脱衣室30は、平面視で、コート25の南隣りに窓を介して位置し、ドライエリア121の北側に窓を介して位置する。ホール27の周囲には、他にも、トイレ272や和室273が位置する。コート25やドライエリア1

10

20

30

40

50

21の植樹は、浴室29、脱衣室30および和室273から視認可能である。

【0045】

上述のLDK22、OD23およびOL24により、大勢の来客をもてなすことができる。また、1階の西側および東側の2箇所にコート25、26を設けることで、1階の大抵の場所（特に、LDK22、OD23およびOL24）で来客は緑に囲まれながら、来客等は、食事や団欒等を楽しむことができる。

【0046】

[2階]

図3において、2階は、住人のためのプライベート空間として用いられ、大略的に、ホール31、ウォークインクローゼット（以下、「WIC」とも称す）32、主寝室（以下、「MBR」とも称す）33、ホール34、サニタリースペース35、BR36、トイレ37、およびBR38を備える。

【0047】

ホール31およびWIC32は、1階のホール21（図2参照）の略真上に位置する。ホール31には、1階（図2参照）からの階段211が設けられている。WIC32は、ホール31の南側に引き戸や隔壁を介して隣接する。WIC32には、住人が身に着ける物（衣類やアクセサリ等）の収納家具が設置される。

【0048】

MBR33は、1階のLDK22（図2参照）のダイニング部分の略直上に位置する。MBR33は、隔壁や引き戸を介してWIC32の南側に隣接する。MBR33には、2個のベッド等が設置される。MBR33の東側には、バルコニー331が窓を介して隣接する。バルコニー331は、1階のOL24（図2参照）の直上に位置し、平面視でコート26（即ち、吹き抜けSW5）の北隣りに位置する。コート26やドライエリア19の植樹は、MBR33やバルコニー331から視認可能である。

【0049】

ホール34は、第1部分341、第2部分342、および第3部分343を有する。第1部分341は、平面視で、MBR33の南西隅から南に向かって吹き抜けSW6、SW5の西側に沿って延びる。第2部分342は、第1部分341の南端から東に向かって吹き抜けSW5に沿って延びる。第3部分343は、第2部分342の東端から南に向かって延びて住宅100の外壁に突き当たる。ホール34には、吹き抜けSW5に沿う位置に、1階（図2参照）からの階段271と、3階（図4参照）への階段344とが設けられている。

【0050】

サニタリースペース35は、洗面台、トイレ、浴室等、衛生面を保つためのスペースであって、MBR33や第1部分341の西側で隔壁や引き戸を介して隣接している。サニタリースペース35の西側には、2つのバルコニー351、352が隣接している。バルコニー351は、1階のOD23（図2参照）の直上に位置する。バルコニー352は、1階の浴室29および脱衣室30（図2参照）の略直上であって、ドライエリア121よりも北に位置する。バルコニー351、352は、平面視でコート25（即ち、吹き抜けSW3）の北隣りおよび南隣りにそれぞれ位置する。コート25の植樹は、バルコニー351、352から視認可能であり、ドライエリア121の植樹は、バルコニー352から視認可能である。

【0051】

BR36は、サニタリースペース35の南側に隔壁を介して隣接し、引き戸を介して第2部分342に面している。トイレ37およびBR38は、第3部分343を挟んで西側および東側に個々の隔壁を介して位置する。BR38は、平面視でドライエリア19（即ち、吹き抜けSW4）の南隣りに位置する。BR36、38には、ベッド等が設置される。

【0052】

[屋上]

図4において、屋上には、階段室39と、スカイバルコニー40とが設けられている。

10

20

30

40

50

階段室 39 は、第 1 部分 341 の上方の位置で東西南北および上方を外壁で区画された空間であり、2 階からの階段 344 が設けられている。スカイバルコニー 40 は、階段室 39 の北側に引き戸を介して隣接し、平面視で吹き抜け空間 SW4 の西隣りに位置する。スカイバルコニー 40 は、住宅 100 の屋根の一部がフラットになっていて、バルコニーとして使用できるエリアである。スカイバルコニー 40 には、椅子やテーブルを含むリビングセット 401 が設置される。

【0053】

〔住宅 100 の作用効果〕

出入口 111, 112 から玄関 13 に至る自動車路 11 によるアプローチにより高級感が出る。また、玄関が一つであると、大人数の来客があったとき、単一の玄関が来客と住人として混雑するおそれがある。しかし、住宅 100 では、大人数の来客があったときでも、来客用の玄関 13 および住人用の玄関 14 に分かれているため、来客用の動線と、住人用の動線とが重なり合わないため、来客が住宅 100 内にスムーズに移動できる。

【0054】

玄関 13, 14 が自動車路 11 とともに地階にあるため、日当たりのよい 1 階を居住空間として活用できる。

【0055】

ホール 17 は、図 1 や図 6 に示すように、窓 176 を介してドライエリア 19 に面する。ドライエリア 19 は、上方に向かって開放されている。そのため、図 6 の矢印 AR4 に示すように、ホール 17 は、窓 176 を介して入る日光により明るくなり、来客等は、ホール 17 や階段 172 を歩きやすい。同様に、EL16 は、図 1 や図 5 に示すように、窓 161 を介してドライエリア 19 に面するため、図 5 の矢印 AR1 で示すように、EL16 にも日光を取り込める。

【0056】

また、上述の第 1 空間が吹き抜け空間 SW2 の周囲に窓を介して隣接するため、第 1 空間に日光が届き易い（図 5, 図 6 参照）。吹き抜け空間 SW2, SW4 が水平方向において連続し且つ上向きの開口になっており、上述の第 2 空間および第 3 空間の各々は、連続する吹き抜け空間 SW2, SW4 の周囲に窓を介して隣接するため、第 2 空間や第 3 空間にも日光が届き易い。同様の理由により、OL24 やバルコニー 331 等に入ってきた風が、図 5 や図 6 に示すように、吹き抜け空間 SW2, SW4 を通って、第 1 空間、第 2 空間および第 3 空間に届き易くなるとともに（図 5 の矢印 AR2, AR3 を参照）、第 2 空間や第 3 空間からもドライエリア 19 やコート 26 の植樹の緑を楽しむことができる。特に、地階に関しては、階段 175 を有するホール 17（図 6 の矢印 AR4 参照）に日光や風が届き易いため、来客等がホール 17 や階段 172 を快適に歩くことができる。また、EL16（図 5 の矢印 AR1 参照）に日光や風が届き易いため、来客等が EL16 で快適に過ごせる。

【0057】

駐車スペース 12 と、EL16 やシアタールーム 20 とが同一階（即ち、地階）に設けられているため、来客等は、これらの間をスムーズに行き来できる。地階には通路 151 が設けられているため、来客等は、駐車スペース 12 とシアタールーム 20 との間を特にスムーズに行き来できる。

【0058】

シアタールーム 20 から窓 201 を介して駐車スペース 12 の自動車を見ることができ、来客等は、趣味を楽しむことができる。

【符号の説明】

【0059】

100・・・住宅

11・・・自動車路

12・・・駐車スペース

13, 14・・・玄関

10

20

30

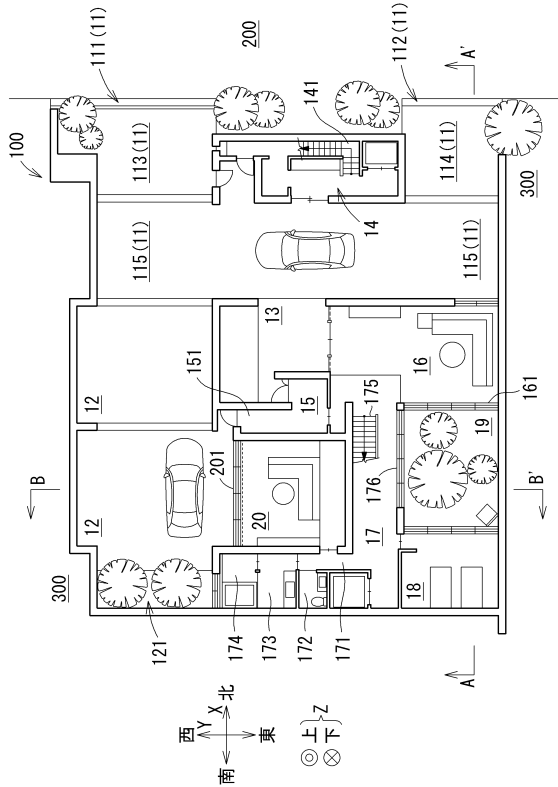
40

50

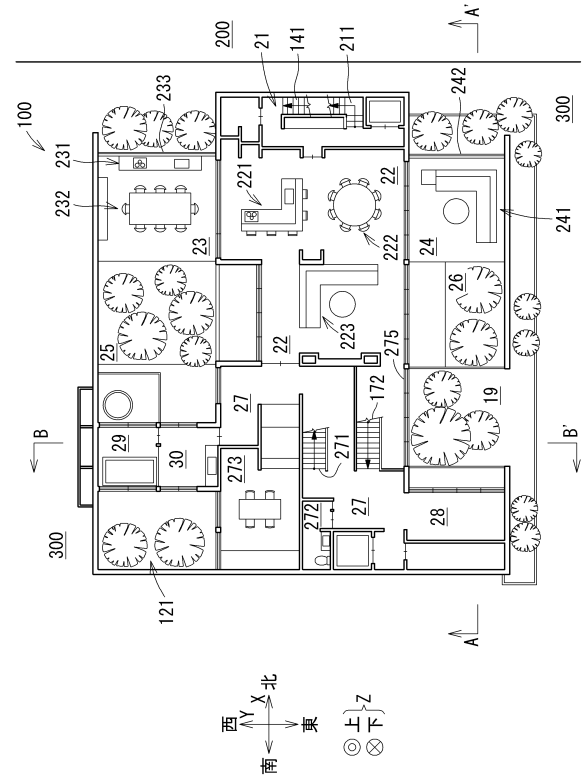
- 16・・・エントランスリビング
 17・・・ホール（廊下）
 18・・・寝室
 20・・・シアタールーム
 22・・・リビングダイニングキッチン
 23・・・アウトドアダイニング
 24・・・アウトドアリビング
 121, 19・・・ドライエリア
 161, 176, 201・・・窓

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

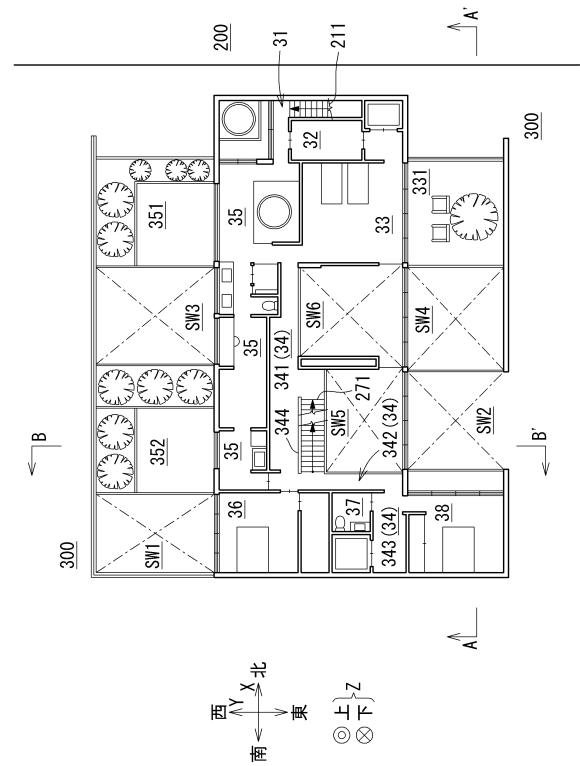
20

30

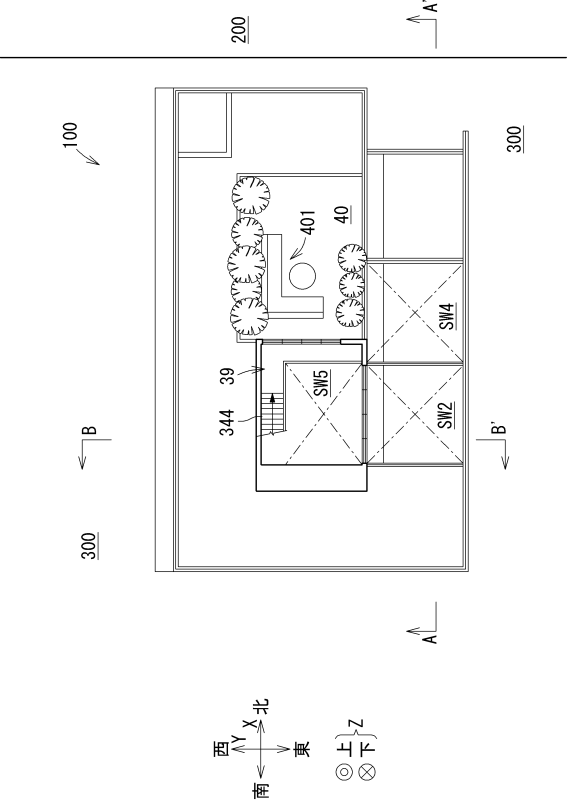
40

50

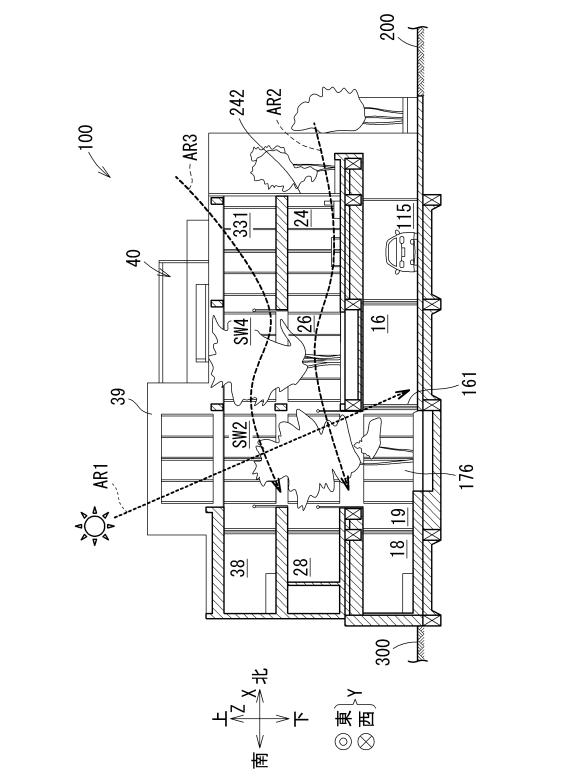
【図 3】



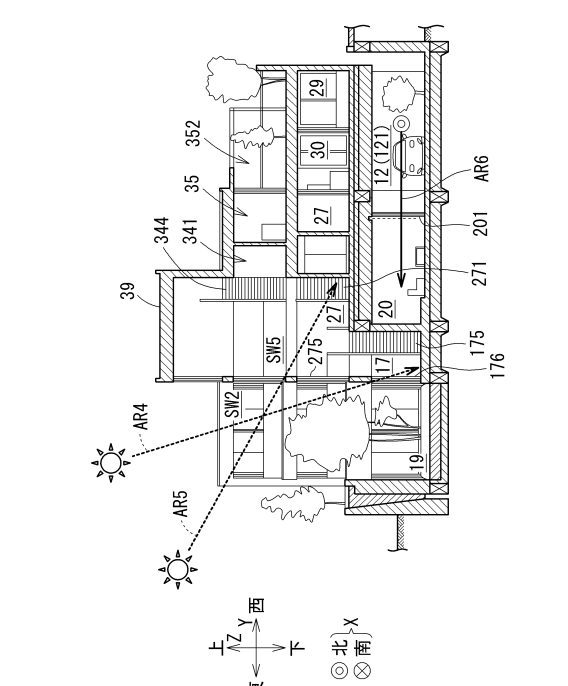
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開２００３－０６４８８９（ＪＰ，Ａ）
 特開２０００－１１０３７０（ＪＰ，Ａ）
 特開平１１－０７１９１２（ＪＰ，Ａ）
 特開平０９－０３２３１６（ＪＰ，Ａ）
 特開２００３－１４７９７７（ＪＰ，Ａ）
 特開平１０－０３７４９６（ＪＰ，Ａ）
 米国特許第０４７４５７１９（ＵＳ，Ａ）
- (58)調査した分野 (Int.Cl., ＤＢ名)
 Ｅ０４Ｈ １／０２